

# 製品仕様書

東北電力株式会社サービス区域向

電力需給用複合計器（時間帯別）

〔単独計器：30A、120A定格〕

単相3線式 AM2CN-R形

大崎電気工業株式会社

### 1. 総説

この計器は、東北電力株式会社サービス区域のお客様が単独で使用する、単相3線式、時間別(以下「時間帯別計器」という)に計量を行う電力需給用複合計器(以下「計器」という)です。

### 2. 構成

計器は、次の計器を一体化した電子式電力需給用複合計器です。

- (1) 普通電力量計(時間帯別)
- (2) 時間帯切替用タイムスイッチ

### 3. 計器の名称、定格

計器の名称および定格は表1のとおりとします。

表1

相線式	定格電圧 (V)	定格電流 (A)	定格周波数 (Hz)	計器定数	形名	形式承認番号
単相 3線式	100	30	50/60	500/3	AM2CN-R	2659-2
		120		125/3		2660-2

#### 4. 機能

##### 4.1 計量種別

計器は計量種別の設定により、次のとおりとします。

- (1) 時間帯別計器（時間帯 2 区分）

##### 4.2 計量項目

- (1) 時間帯別電力量

##### 4.3 検定外表示項目

現在時刻（時、分）

##### 4.4 計器設定

計量種別

表 2

時間帯	計量種別
時間帯 1：7～23時，時間帯 2：23～7時	2 1
時間帯 1：8～22時，時間帯 2：22～8時	2 2

##### 4.5 表示項目

- (1) 計器の最低位数字は、1 ずつ躍進するものとします。このとき、最低位に満たない計量値を切り上げないものとします。
- (2) 時間帯別計器の各表示項目の表示内容と表示方法および表示桁数は、表 3 のとおりとします。
- (3) 停電時間が連続 240 時間を超えた場合、全ての表示は消灯します。
- (4) 検定取得数が 2 以上の場合は、表示時間帯ともに計量時間帯を表示します。
- (5) 停電中も、通常通り表示を継続します。

表 3

表示項目	表示内容および表示方法
電力量	現在までの累積電力量を表示します。 ・単相 30A 定格：6 桁（小数点以下 2 桁） ・単相 120A 定格：6 桁（小数点以下 1 桁）
表示時間帯	電力量を表示している時間帯を表示します。
計量時間帯	計量している時間帯では、電力量表示の左側に「▶」を点灯します。
現在時刻	「時」と「分」の文字と同時に、現在時刻を時 2 桁、分 2 桁で 24 時間制（00:00～23:59）で表示し、コロン「：」は 1 秒間隔に点滅（点灯 0.5 秒、消灯 0.5 秒）します。
時間帯別パターン表示	時間帯別計器は、各時間帯別パターンを「時間帯、開始時刻 - 終了時刻」の形（例：1、07 - 23）で表示します。
動作状態表示	動作 ・計器の動作状態を表示します。 ・計量中は、定格時に 2 回 / 秒の周期で「▶」を点滅します。 ・逆潮流時および無計量時は「▶」を消灯します。 ・計量時間帯に関係なく動作します。
	無計量 ・負荷の状態を表示し、無計量の場合は「▶」を点灯します。 ・逆潮流時および無計量時は「▶」を点灯します。 ・計量時間帯に関係なく動作します。
	停電 ・停電状態のとき「▶」を点灯します。

#### 4.6 時間帯別計器

- (1) 時間帯別計器は、設定された計量時間帯の開始時刻と終了時刻にもとづき、時間帯別に電力量を計量します。
- (2) 計量時間帯の設定は、1日を1時間単位で2区分し、工場出荷時に設定します。
- (3) 電力量は、表示時間帯とともに表示し、時間帯ごとにサイクリックで表示します。

#### 4.7 時計

- (1) 通電時（商用電源）は電源周波数に同期し、停電後240時間以内は水晶発振器による計時とします。
- (2) 水晶発振器による時計の精度は、温度条件が0～50の場合には±18秒/日以内、-25～0（未満）および50（超過）～70の場合には±25秒/日以内とします。
- (3) 無電圧時（商用電源と停電補償用電池ともない状態）から電圧を印加された場合、または240時間を超える停電の後に商用電源が印加されるか、もしくは「設定」釦が押された場合の初期表示は、「00:00」より計時を開始します。
- (4) 時分の設定機能を有するものとします。

#### 4.8 カレンダー機能（非表示）

- (1) 2000年から2030年までの万年カレンダーを内蔵するものとし、以降5年ごとにN年から(N+30)年までの万年カレンダーを内蔵するものとします。
- (2) 年月日の設定機能を有するものとします。
- (3) 無電圧時から電圧を印加された場合および初期設定は、2000年1月1日とし、5年ごとにN年1月1日とします。

#### 4.9 停電時の処理と節電機能

- (1) 商用電源が停止した場合には、内蔵電池の電圧に影響されることなくCPUが動作して計量値を不揮発性メモリに記憶するとともに、動作電源を内蔵電池に切り替えて計量値の表示と計時動作を継続します。
- (2) 連続240時間以内の停電は、全ての機能が動作し、連続240時間の停電を超えた時点で節電機能が動作し、その他の機能は停止します。
- (3) 節電機能は、次のとおりとします。
  - a. 表示の消灯
  - b. 時計の停止
- (4) 節電機能は、次の場合に解除されるものとし、「4.7時計」および「4.8カレンダー機能」にもとづき計時を開始します。
  - a. 商用電源を印加した時
  - b. 「設定」釦を押した時

#### 4.10 設定部の機能（1）

- (1) 「設定」釦と「記憶」釦の操作により、以下に示す各項目の確認、設定および修正が可能であり、商用電源の有無にかかわらず機能するものとします。
  - ・現在時刻（確認のみの表示有り）
  - ・表示時間
  - ・計量確定日（自動確定を有効に設定した場合）
  - ・現在年
  - ・現在月日
  - ・現在時刻
- (2) 設定行為中は、画面に表示する「現在時刻」は、停止状態（コロンを点灯）とし、「分」を設定し「記憶」釦を押した時点で秒を00として、設定を完了します。
- (3) 時刻は、設定中も計時し続けるものとし、最初に「設定」釦を押してから5分経過した場合

は、設定入力内容を無効とします。なお、現在時刻は設定行為前の時刻に以降の経過時間を含めた時刻で復帰するものとします。

(4) 具体的な設定操作例は以下のとおりとします。

- a. 「設定」釦を押すことにより、設定画面に移行します。  
現在時刻と計量表示部はオール 0 を表示します。「記憶」釦を押すと、表示時間の設定画面に移行します。
- b. 表示時間を 2 桁でフリッカ表示し、「設定」釦を 1 回押すことにより、表示時間が変化し、「設定」釦を押し続けることにより、数字の早送りとなります。「記憶」釦を押すと表示時間が確定します。  
(例)「設定」釦を押すこと 05 10 15 05・・・と変化します。
- c. 自動計量確定日が設定されている場合は、「検針」表示を点灯し、計量確定日の表示を 2 桁でフリッカ表示します。自動計量確定日が設定されていない場合は、次の西暦年の設定へ進みます。  
「設定」釦を 1 回押すことにより、計量確定日が 1 変化し、「設定」釦を押し続けることにより、数字の早送りとなります。「記憶」釦を押すと計量確定日が確定します。  
(例)「設定」釦を押すこと 01 02 …… 31 01・・・と変化します。
- d. 西暦年を 4 桁でフリッカ表示し、「設定」釦を 1 回押すことにより、西暦年が 1 変化し、「設定」釦を押し続けることにより、数字の早送りとなります。「記憶」釦を押すと西暦年が確定します。  
(例)「設定」釦を押すこと 2000<sup>1</sup> 2001 ……2030<sup>2</sup> 2000<sup>1</sup>・・・と変化します。  
( 1: 万年カレンダーの初期年、 2: 万年カレンダーの最終年 )
- e. 月日を 4 桁 ( 月: 2 桁、日: 2 桁 ) で表示し、月 2 桁がフリッカ表示します。「設定」釦を 1 回押すことにより、月が 1 変化し、「設定」釦を押し続けることにより、数字の早送りとなります。「記憶」釦を押すと月が確定し、日 2 桁がフリッカ表示します。「設定」釦を 1 回押すことにより、日が 1 変化し、「設定」釦を押し続けることにより、数字の早送りとなります。「記憶」釦を押すと日が確定します。  
(例)「設定」釦を押すこと月が 01 02 …… 12 01・・・と変化します。  
(例)「設定」釦を押すこと日が 01 02 …… 31 01・・・と変化します。
- f. 時 2 桁がフリッカ表示します。「設定」釦を 1 回押すことにより、時が 1 変化し、「設定」釦を押し続けることにより、数字の早送りとなります。「記憶」釦を押すと時が確定し、分 2 桁がフリッカ表示します。「設定」釦を 1 回押すことにより、分が 1 変化し、「設定」釦を押し続けることにより、数字の早送りとなります。「記憶」釦を押すと分が確定し、現在時刻の秒を 00 秒として設定を完了し、現在画面に戻ります。  
(例)「設定」釦を押すこと時が 00 01 …… 23 00・・・と変化します。  
(例)「設定」釦を押すこと分が 00 01 …… 59 00・・・と変化します。

#### 4. 1. 0 設定部の機能 ( 2 )

- (1) 計器は、「設定」釦の長押しと「記憶」釦の操作により、自動計量確定および検針画面の設定および修正が可能であり、商用電源の有無にかかわらず機能するものとします。なお、この機能は、節電機能が働いている場合は表示しないものとします。
- (2) 時刻は、設定中も計時し続けるものとし、最初に「設定」釦を押してから 5 分経過した場合は、設定入力内容を無効とします。なお、現在時刻は設定行為前の時刻に以降の経過時間を含めた時刻で復帰するものとします。
- (3) 自動確定の有効 ( 01 ~ 31 日 ) ・無効 ( 00 日 ) および検針画面の点灯 ( 1 ) ・消灯 ( 0 ) の設定にかかわらず設定できるものとします。
- (4) 具体的な設定操作例は、次のとおりとします。
  - a. 「設定」釦を 3 秒以上押し続けることにより、自動確定および検針画面の設定画面に移行します。「検針」表示を点灯し、左詰めに計量確定日の表示を 2 桁でフリッカ表示し、

検針画面の表示設定をスペースと1桁で点灯表示します。

「設定」釦を1回押すことにより、計量確定日が1変化し、「設定」釦を押し続けることにより、数字の早送りとなります。「記憶」釦を押すと計量確定日が確定します。

(例)「設定」釦を押すこと 00 01 02 …… 31 00 01 ……と変化します。

b. 検針画面の表示設定をフリッカ表示し、「設定」釦を1回押すことにより、検針画面の表示設定が1変化し、「設定」釦を押し続けることにより、数字の早送りとなります。「記憶」釦を押すと検針画面の表示設定を完了し、現在画面に戻ります。

(例)「設定」釦を押すこと 0 1 0 1 ……と変化します。

#### 4.1.1 時間帯別パターンの表示

時間帯別計器は、商用電源の有無にかかわらず「設定」および「記憶」釦の操作により、各計量時間帯の計量時間を「 (計量開始時間) - (計量終了時間)」の形で左詰めに表示できるものとします。なお、時間帯別パターン表示は、節電機能が働いている場合は表示しないものとします。

- (1) 「記憶」釦を2秒以上押し続けると「時間帯パターン」を表示するモードに移行し、計量時間帯別の計量時間を表示します。
- (2) 「設定」釦を押すと次の計量時間帯の計量時間を表示します。なお、同一時間帯区分で複数の計量時間帯がある場合は、「設定」釦を押すことにより、次の計量時間帯を表示します。
- (3) 「記憶」釦を押した場合または時間帯別パターン画面に移行後5分の経過により、現在画面に戻るものとします。

#### 4.1.2 停電補償

10年間の使用状態の下で、240時間(10日)の停電(全機能を補償する最長停電)を9回と工事停電等(全機能を補償)を2日補償し、さらに節電機能が動作(240時間を超える停電)している停電を累積190日補償できるものとします。

### 5. 構造

#### 5.1 一般事項

- (1) 計器は、良質な素材に所要の加工を施した機構部品と、厳選し十分なスクリーニングを行った電子部品によって、入念かつ均一に組み立てられたもので、構造の各部は丈夫で通常の輸送や取扱中に起こる振動衝撃に十分耐えるとともに、湿気や塵埃の侵入を防ぎ、扱い易く、しかも体裁の優美なものとなります。
- (2) 電気的には良好な特性を有し、長期間の使用に対し安定性のあるもので、温度、湿度等の外界の影響を受けることが少なく、特に、ノイズ、インパルス等の電気的な外乱に対して長期間の使用に耐えるものとします。

#### 5.2 計量表示部

- (1) 表示は、文字、マーク等の形、大きさ、配列を誤認することがなく、コントラストが良好で読取りやすいものとします。
- (2) 表示はどの方向から見ても0~7および9が  (全点灯)に見えないものとします。  
また、6, 7, 9の表示は , ,  の字形とします。  
計量の単位はkWhとし、整数位と小数位を容易に識別できるように、計量窓の整数部に黒線を施すものとします。

#### 5.3 ベース、カバー

- (1) 計器はすべて表面接続、表面取付形とし、普通耐候形の耐候性能を有することとします。
- (2) カバーはガラス窓付きとし、銘板および表示部を除き、電子部品に直接日光が当たらない構造とします。
- (3) カバーとベース間および端子ボックスとベース間には、虫害のおそれがなく、かつ他の材料

に対し侵食の影響がなく、しかも長期間にわたってその効果が変わらない適当な弾性材料のパッキンを使用するものとし、端子部を除いた主要素子部は完全に密閉できる構造とします。なお、パッキンの取付けに接着剤を用いる場合は、乾燥後ひび割れやくずが落ちないような材料で入念に塗布することとします。

- (4) ベースおよびカバーの色は、マンセル記号N 5（灰色系）を標準とします。
- (5) 計器は、その表面方向の左右約 30 度ずつの方向およびそれと計器を含む垂直面内のそれぞれ下方約 35 度の範囲内で、計器からいずれも 1mの位置から見た場合、計量値の読取りや動作状態の観測が十分できるものとします。
- (6) 銘板はアルミ色とします。
- (7) カバーをベースに締付けるねじは、カバーを取外した場合でもカバーから落ちない構造とします。
- (8) 計器は、その側面から適当なところにベースとカバーとの間を封印できる装置を備え、この封印を破らなければ動作装置に接触できない構造とします。
- (9) カバー枠は、リベット、ハトメ等を使用しない構造とします。
- (10) 端子部は、外部から塵埃侵入阻止を考慮した通気性を有する構造とします。
- (11) 停電補償用電池は、検定封印内に設けるものとします。

#### 5.4 端子ボックスおよび端子カバー

- (1) 計器は、その下部に「4 - 3 ベース、カバー」のカバーとは別の丈夫な「端子ボックス」を備え、「4 - 3 ベース、カバー」のカバーの封印とは別に、封印ねじによりこれを封印可能な構造とします。
- (2) 端子ボックスは、良質な絶縁物を用い、各端子を正しく配列できるよう形成し、電線締付け時に、他の金属部分にねじ回しなどが接触する恐れのない構造とします。
- (3) 端子ボックスの絶縁物は、黒色とします。
- (4) 計器は、これを使用箇所に取付け(1)の封印を施した後は、この封印を破らなければ計器の取付け状態や電線接続を変えることのできない構造とします。
- (5) 端子カバーの封印ねじは、端子カバーを取外した場合でも端子カバーから落ちない構造とします。
- (6) 計器の端子金物は黄銅製とし、相互によく適合するものでかつ十分な機械的強度を持つとともに表4の電線が完全に締付けできるものとします。

また、表4の最大太さの電線を挿入した際、端子金具の移動距離をできるだけ少ないものとし、かつ内部の異なる極性の充電部が4mm以上保たれる構造とします。

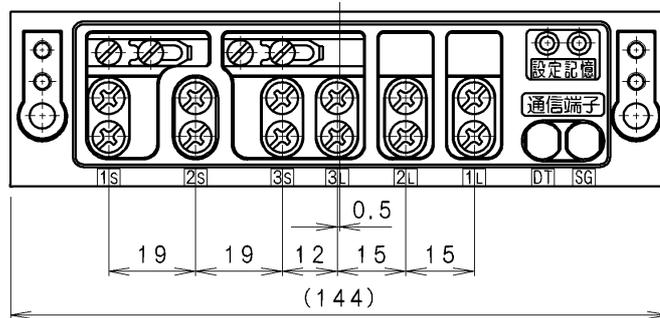
表4

計器の 定格電流 ( A )	使用する 600V ビニル電線			
	太さ	導 体		仕上外形 ( mm )
		素線数 / 素線径 ( mm )	径 ( mm )	
30	1.6mm ~ 22mm <sup>2</sup>	1/1.6 ~ 7/2.0	1.6 ~ 6.0	約 3.2 ~ 9.2
120	2.6mm ~ 60mm <sup>2</sup>	1/2.6 ~ 19/2.0	2.6 ~ 10.0	約 4.6 ~ 14.0

5.5 端子構造および電線接続法

(1) 計器の端子構造は図1のとおりとします。

a. 単相3線式 30A



b. 単相3線式 120A

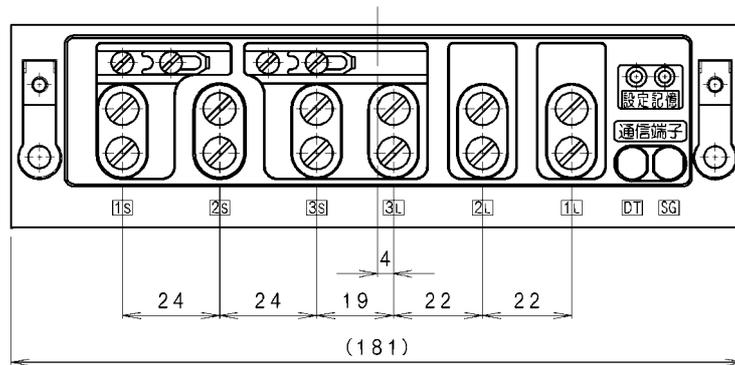


図1 端子構造

(2) 電線接続方法

計器への電線接続方法は図2のとおりとします。計器の端子カバーの裏面には、接続図を表示します。

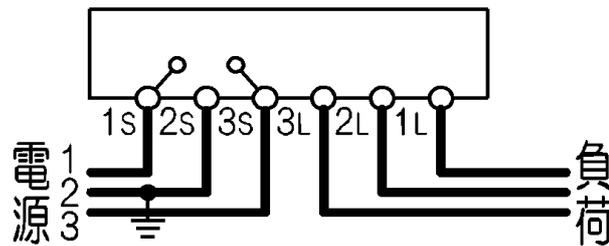


図2 電線接続方法

5.6 操作部

- (1) 端子ボックスの1L端子の右側に感電防止に必要な距離をおいて「設定」および「記憶」釦を設けるものとします。
- (2) 釦の色は黒色とします。
- (3) 押し釦スイッチとし、動作設定機構は、モーメンタリースイッチ（押し操作時に動作する機構）とします。

5.7 銘板例

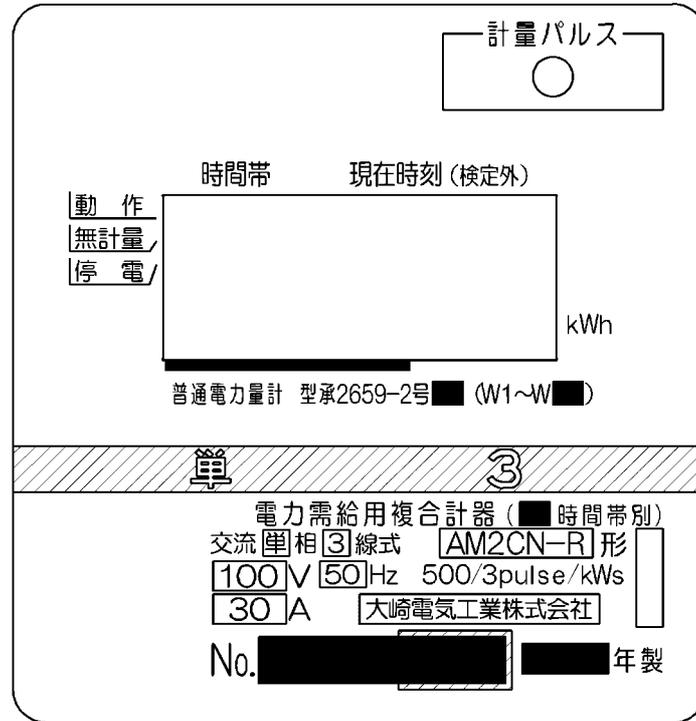
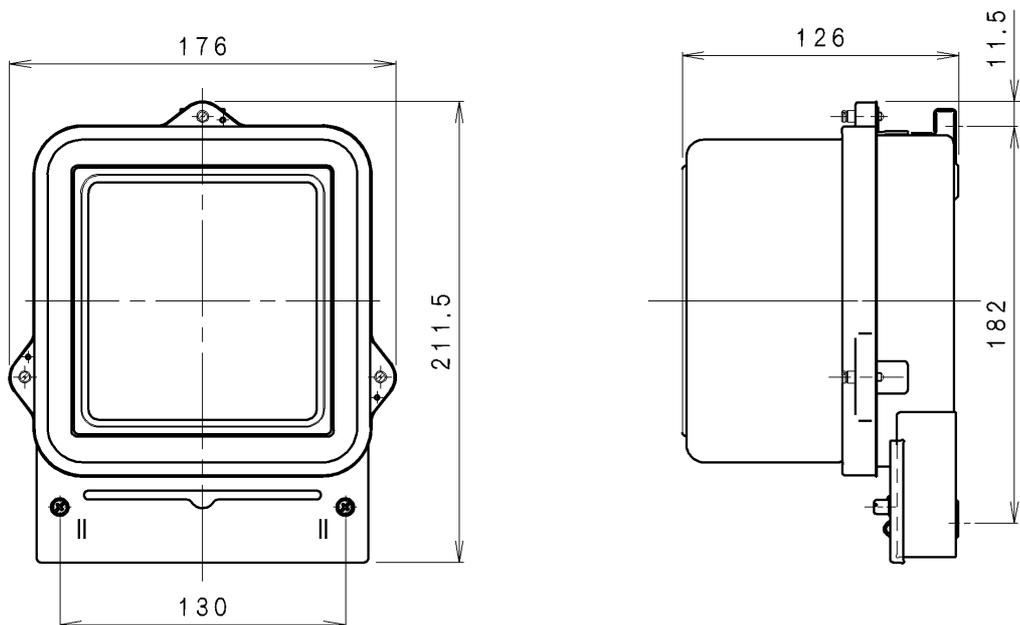


図3 銘板例

5.8 外形寸法

a. 30A 計器



b. 120A 計器

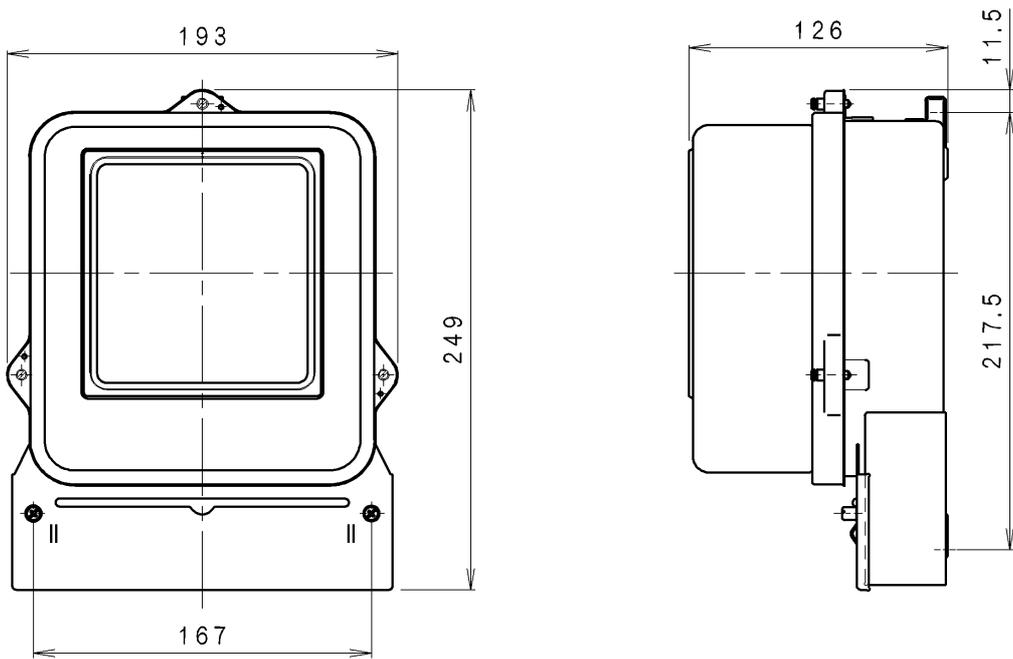
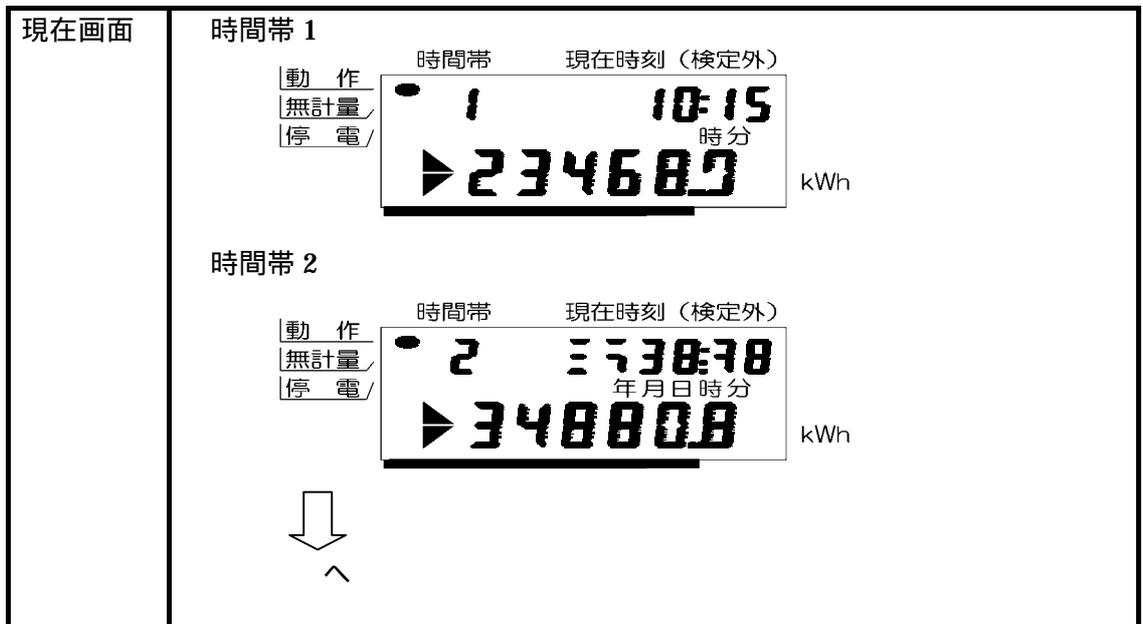


図 4 計器の外観構造

6 . 画面遷移

6 . 1 時間帯別計器

(1) 現在画面表示



## 6.2 設定画面

### (1) 時刻設定

項目	操作方法	画面推移
設定画面への移行	任意の現在画面において、「設定」釦を押すと設定画面に移行する。設定画面移行時の時刻を「時」と「分」の文字と同時に表示し、コロンは点灯とする。	現在画面 または 検針画面 ↓
現在時刻の表示	「記憶」釦で次の「表示時間の設定」に移行する。	
表示時間の設定	表示時間 2 桁をフリッカ表示する。 「設定」釦で数値を躍進し、選択する。(05 10 15 …) 「記憶」釦を押すと確定し次の設定画面に移行する。自動確定を有効に設定した場合は「確定日の設定」に移行し、自動確定を無効の場合は「西暦年の設定」に移行する。( * 1 )	
確定日の設定	「検針」の文字と同時に、確定日 2 桁をフリッカ表示する。 「設定」釦で数値を躍進し、選択する。 (03 04 … 31 01 …) 「記憶」釦を押すと確定し「西暦年の設定」に移行する。	
西暦年の設定	西暦年 4 桁をフリッカ表示する。 「設定」釦で数値をカレンダーの範囲内で躍進し、選択する。 (2000 2001 … 2030 2000 …) 「記憶」釦で確定し、「月の設定」に移行する。	
月の設定	月日 4 桁を表示し、月 2 桁をフリッカ表示する。 「設定」釦で月の数値を躍進し、選択する。 (01 02 … 12 01 …) 「記憶」釦で月が確定し、「日の設定」に移行する。	
日の設定	日 2 桁をフリッカ表示する。 「設定」釦で日の数値を躍進し、選択する。 (01 02 … 月末日 01 …) 「記憶」釦で日が確定し、「時の設定」に移行する。 ただし、カレンダーに存在しない年月日の場合は確定せず、「西暦年の設定」に戻る。また、月末日はうるう年を考慮する。	

<p>時の設定</p>	<p>時 2桁をフリッカ表示する。  「設定」釦で時の数値を躍進し、選択する。  (00 01 ……23 00 ……)  「記憶」釦で時が確定し、「分の設定」に移行する。</p>	
<p>分の設定</p>	<p>分 2桁をフリッカ表示する。  「設定」釦で分の数値を躍進し、選択する。  (00 01 ……59 00 ……)  「記憶」釦で分が確定する。  確定と同時に今までの設定内容が有効となり、00秒から計時を開始し現在画面に戻る。</p>	
<p>現在画面への復帰</p>	<p>設定画面に移行してから 5 分間経過した時点で完了しない場合は設定内容を破棄し、現在画面に戻る</p>	<p>現在画面</p>

\* 1 自動計量確定の有効/無効設定は ( 2 ) 計量確定機能設定画面で行います。

## (2) 計量確定機能設定

項目	操作方法	画面推移
設定画面への移行	任意の現在画面において、「設定」釦を3秒以上押すと設定画面の現在時刻を表示後、計量確定機能設定画面に移行する。	現在画面 または 検針画面 ↓
現在時刻の表示		
自動計量確定日の設定	計量確定日2桁と検針画面表示設定1桁を表示し、計量確定日2桁をフリッカ表示する。 「設定」釦で数値を躍進し、選択する。 (00 01 . . . . 31 00 . . .) 「記憶」釦を押すと確定し「検針画面表示の設定」に移行する。	
検針画面表示の設定	表示設定1桁をフリッカ表示する。 「設定」釦で数値を躍進し、選択する。(0 1 0 . . .) 「記憶」釦を押すと設定値が有効となり、現在画面に戻る。	
現在画面への復帰	設定画面に移行してから5分間経過した時点で完了しない場合は設定内容を破棄し、現在画面に戻る	現在画面

### 6.3 時間帯別計器パターン表示

時間帯別計器では、「設定」および「記憶」釦の操作により、各計量時間帯の計量時間を「 (計量開始時間) - (計量終了時間)」の形で表示する。

時間帯	計量時間例 1	計量時間例 2
1	07 ~ 23 時	08 ~ 22 時
2	23 ~ 07 時	22 ~ 08 時

時間帯パターン表示画面への移行	任意の現在画面において、「記憶」釦を2秒以上押し続けると「時間帯別パターン表示画面」に移行し、時間帯計器の計量時間帯を表示する。	現在画面 または 検針画面 ↓
時間帯 1 の計量時間を表示	計量時間帯表示画面中は、画面移行時の時刻を「時」、「分」の未時と同時に表示し、コロンは点灯とする。	時間帯 1  ↓
時間帯 2 の計量時間を表示	「設定」釦を押すと次の計量時間帯の計量時間を表示する	時間帯 2  ↓
現在画面への復帰	「記憶」釦を押すか、「時間帯別パターン表示画面」に移行してから5分間経過した時点で現在画面に戻る	

7. 特性

電氣的性能・機械的性能・絶縁性能

普通級（单相3線式）の各性能の許容範囲は次の通りです。

No.	項目	試験条件		許容限度(%)	備考
1	誤差の許容限度	(Fn, En)	pf1 正 3.3% ~ 100%In pf 0.5 正 6.7% ~ 100%In	±2.0 ±2.5	
2	始動電流	Fn, En, pf1, 0.266%In 10sec		計量パルスが2パルス以上発信を継続すること。	
3	潜動	90%En, 110%En, 無負荷 90sec		計量パルスが発生しないこと。	
4	電流特性	Fn, En	pf1 正 3.3% ~ 100%In	1.5 以下	
			pf 0.5 正 6.7% ~ 100%In	2.0 以下	
		Fn En	pf1 6.7% ~ 50%In	2.5 以下	
			pf 0.5 13.3% ~ 50%In		
5	不平衡負荷の影響	1)不平衡負荷誤差 - 平衡負荷誤差		±3.0	2素子計器のみ適用
		Fn En	pf1 6.7% ~ 50%In		
			pf 0.5 13.3% ~ 50%In		
		2)不平衡負荷誤差			
Fn En	pf 0.5 13.3% ~ 50%In				
6	温度特性	Fn, En, 100%In	pf1 - 10 ~ + 40	0.6 以下	10 変化に対する誤差の変化
			pf 0.5 - 10 ~ + 40	1.0 以下	
7	電圧特性	Fn, En ± 10%	pf1 6.7% ~ 100%In	1.0 以下	
			pf 0.5 100%In		
8	周波数特性	Fn ± 5%, En	pf1 6.7% ~ 100%In	1.0 以下	
			pf 0.5 50%In	2.0 以下	
9	自己加熱の影響	1)En 1時間通電後 In 印加 Fn, pf1, pf 0.5	pf1	0 ~ 30 分	1.0 以下
				30 ~ 120 分	0.5 以下
			pf 0.5	0 ~ 30 分	1.0 以下
				30 ~ 120 分	0.5 以下
		2)En, In 同時印加 Fn, pf1, pf 0.5	pf1	0 ~ 30 分	1.0 以下
				30 ~ 120 分	0.5 以下
pf 0.5	0 ~ 30 分	1.0 以下			
	30 ~ 120 分	0.5 以下			
10	電圧回路の皮相電力損失	Fn, En, 50%In	1S-2S, 3S-2S	各素子 4W 以下 各素子合計 6W 以下	
11	電流回路の皮相電力損失	Fn, En, 50%In	各素子ごと	30A : 2W 以下 120A : 3W 以下	
12	逆電流の影響	Fn, En, 0.266%In, pf1	逆方向電流 10sec	計量パルスが発生しないこと。	
13	外部磁界の影響	Fn, En, 6.7%In, pf1	最大影響誤差	1.0 以下	直径 1 m の円形コイル 起磁力 100 A
14	波形の影響	10%の第3高調波 Fn, En, 33%In, pf1		1.0 以下	
15	絶縁抵抗	DC500V メガーにて 電流回路とベース間 電圧回路とベース間 電圧電流回路間 電流回路相互間 (2素子計器のみ)		5M 以上	
16	商用周波耐電圧	電流回路とベース間 電圧回路とベース間 電流回路相互間 (2素子計器のみ)		AC2000V 1分間耐えること	
		電圧回路と電流回路間		AC600V 1分間耐えること	
17	雷インパルス	波形 1.2 × 50 μ sec 6Kv 正極性 1回 1S-2L 間, 3S-2L 間, 1S-3S 間		放電しないこと	

注) En, Fn は定格電圧、定格周波数、In は定格電流を表します。

項目 1 ~ 17、また、その他の性能は下記の規格に準拠しています。

JIS C1210 電力量計通則

JIS C1211 電力量計 (単独計器)

電子式電力量計類の性能・構造基準

以上

(2006.5.31)